

## 実践的な技術習得へICT施工研修

群馬建協が開講式



参加し、全5日間の日程で実践的なICT技術を学ぶ。関東地方整備局、群馬県、全国建設業協会が後援する。

群馬建協の富澤博邦副会長は冒頭、青柳会長のメッセージを代読し、「ICT施工は、直轄の工事はもちろん県の工事でも幅広く実施されるようになってきた。こうした広がりの中でICT施工の考え方の原理・原則を学んでおくことは、道具としてのITに振り回されないため大事なことで」と述べた。

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は7日、前橋市の群馬建設会館で2023年度ICT施工研修開講式を開いた。7年目の今回は9人が

をお願いしたい」と青木崇光所長のメッセージを代読した。群馬県県土整備部建設企画課建設業対策室の荻野邦夫室長は眞庭宣幸部長に代わり、「実践的な研修はICT活用工事の普及拡大に大きく寄与する」と述べた。

この後、日本マルチメディア・イクイップメントの高田守康代表取締役と花坂弘之テクニカルスペシャリストが研修内容を解説した。

初日の7日は、県や国土交通省のICTの取り組み状況などを学んだ。次回以降は、3次元起工測量、3次元設計、ICT施工、3次元出来型計測、3次元データ納品までの一連の流れを講義と実習を通じて研修する。

## 会員向けICT 施工研修スタート

群馬建協

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は7日、7回目となる会員企業向けの「ICT施工研修」を始めた。写真。ICT施工やi-Constructionの動向、現場の取り組みなどを5日間で学ぶ。群馬県と関東地方整備局高崎河川国道事務所が後援している。9人が参加した。

同日の開講式では、群馬



建協の富澤博邦副会長が「直轄工事や県工事でICT施工が増えてきた中、全体を見渡したICT施工の考え方の原理・原則を学ぶことは、『道具としてのICT』に振り回されないために大事だ。有意義な研修会になることを祈っている」と青柳会長の祝辞を代読した。続いて、高崎河川国道事務所の青木崇光所長のあいさつを土屋秋男副所長、群馬県の眞庭宣幸県土整備部長のあいさつを同部の萩野邦夫室長が代読した。

研修では日本マルチメディア・イクイップメントの花坂弘之テクニカルスペシャリストがオリエンテーションやICT活用の動向を紹介。群馬県県土整備部の担当者が同部のi-Constructionや働き方改革の取り組みを説明する。関東整備局企画部の担当者はi-Constructionの全体像を解説する。



## リカレント研修開講

群馬建協

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は8日、前橋市の群馬建設会館で2023年度リカレント研修開講式を開いた。写真。関東地方整備局と群馬県が後援する。入社3―5年程度の会員企業8社と、県建設技術センターの技術者計14人が新技術などを学び、スキルアップにつなげる。

群馬建協の泉野高志副会長が青柳会長のメッセージを代読したのに続き、関東整備局



の青木崇光高崎河川国道事務所長は「研修は個人のみならず、会社を持ち帰り、会社全体の底上げにつなげてほしい」

とあいさつした。

この後、日本マルチメディア・イクイップメントの高田守康社長が研修内容を説明した。

研修は、土木技術者と建築技術者の2コースで実施する。土木コースは、8日間の日程で3次元点群測量や3次元CAD・VR（仮想現実）、最新の測量機器・技術などを学ぶ。4日間の建築コースでは、3次元CAD・VRのほか工程管理などについて受講する。ともに24年2月20日に閉講式を開く。

## 3DCADや VRの活用学ぶ

群馬建設協  
リカレント研修

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は8日、2023年度のリカレント（学び直し）研修を開始した。写真。3DCADやVR（仮想現実）、点群データ処理など、新技術の活用方法を学び、



技術者としてのスキルを身に付けてもらう。受講者数は12人。

同日の開講式で、群馬建設協の泉野高志副会長は「研修者同士でコミュニケーションを取り、有意義な研修にしてほしい」と青柳会長の祝辞を代読。関東地方整備局の青木崇光高崎河川国道事務所長、群馬県県土整備部建設企画課の山本健一技術次長もメールを送った。

研修は土木技術者コースと建築技術者コースの2コースに分かれて行う。土木技術者コース（参加者8人）は24年2月20日までの計8回。3D点群測量の手法やデータ処理などを習得する。建築技術者コース（4人）は同日までの計4回で、3DCADやVRの活用などを学ぶ。